



「ゴミ焼却場のてんまつ」  
 ゴミ焼却やし尿処理については旧赤池・金田・方城と糸田町の下田川4町で組合を組織して推進していましたが、昭和50年に旧赤池に今のごみ処理施設が建設されましたが、老朽化に伴い、平成20年と21年に約10億円を投入して改修しています。耐久年数が25年から30年しかありませんから、平成に入ると頃から改築・改修工事の議論がされてきましたが、当時は規制が厳しく、人口やゴミの量が補助金をもらう基準に達していませんでした。新たにゴミの焼却場を造るとなると、巨額の投資が必要になります。この時、田川市と川崎町も1市1町で、昭和60年に建設されたゴミ処理施設を運営。その組合と合併すれば補助金対象となりま

したので、平成9年頃から合併の話が議論され始め、平成13年4月に2つの組合が合併して「田川地区清掃施設組合」を設立しました。当時の合意項目として、新しいゴミ焼却場としては田川市か川崎町で、最終処分場を下田川のいずれかに建設するとなっていました。が、ゴミ焼却場建設予定地域の住民の反対などで白紙になりました。その後、首長で話し合いましたが、川崎町から、町独自で建設したいという意見が出ました。福智町と糸田町も以前から2町で設立という議論がされていたので、2町で新たな組合を作ろうと合意しました。1市3町のそれぞれの議会で福智町と糸田町が組合を脱退する議決が可決された後、両町の議会で組合設立の議案を提案、可決されました。2月に県から組合設立の承認があり、正式名称は「下田川清掃施設組合」に決定。4月1日から新たな組合として発足します。組合議員は福智町から8名、糸田町から4名の計12名で構成することは決まっています。ただ、新

## 町長が掲げる「福智の明日」に必要な羅針盤 これまでとこれからを地域と共に熟考



しい処分場や焼却方式は全く白紙です。今から研究して議案に提案したいと思っています。  
 今ある2炉ともあと3年ほどしか耐久年数がありません。新しいゴミ焼却場を作るには、環境省への計画書提出や住民説明、環境アセスメントなどの手続きが必要で、手続き完了まで約5年かかります。その間、もう一度改修をするのか、新しいゴミ焼却場ができるまで委託するのか、負担の少ない方法を講じていきたいと思っています。なお、焼却場の建設地が決まれば、地区住民に対する説明会などで周知を図りたいと思っています。

### 観光地としての立脚を

町の目標に観光の町づくりを掲げています。観光資源や特産品を知ってもらう為にフクチ・ファインド・フェスティバルをはじめ、各種イベントを実施。また、日本航空（JAL）が福智町に関心を持っていたが、会長が来庁されたり、JALの情報誌にも福智町を掲載して



今後のまちづくりの重点課題として、ゴミ焼却場・観光のまちづくり・地域支え合い体制づくりの3項目を説明する浦田町長。町と地域の新たな発展・住みよいまちづくりのために地域と協働で取り組んでいくことを訴えました。

町長と共に語り、町と地域の未来を考えるまちづくり懇談会「タウンミーティング」

# トップと地域住民との懇談

## 直談判

町長が各地域で直接住民の皆さんと対話するまちづくり懇談会「タウンミーティング」が、昨年10月29日から今年3月11日まで開催されました。今回は地域住民と密な意見交換がしたいとの趣旨で、説明会場を細かに区画。全30会場で行われ、延べ472人が参加しました。町からは説明員として町長や副町長、教育長、課長らが出席。各会場を回り、お互いが顔を合わせながら、今後の福智町がどうあるべきかを一緒に考えました。各会場の冒頭、あいさつに立った町長は「今年で合併から8年目に入った福智町、その初代町長として皆さんの要望に応えるようにがんばっています。なかなか実現できていないこと、換の場で皆さんの言葉に耳を傾け、今後の町政推進に役立てていきたいと思っています」と懇談会

住民参加型のまちづくりを推進していくための手段の一つ、町長自らが地域に出向き、質問や意見、要望などを、直接住民と語り合うまちづくり懇談会「タウンミーティング」が、町内30か所で開催されました。福智町の未来を共に考え、共に悩んで、その光明を探った経過を報告します。



への抱負を語りました。続いて、今後のまちづくりの方針▼ゴミ焼却場▼観光のまちづくり▼地域支え合い体制づくりの3項目（3ページで紹介）を、約30分にわたり詳細に説明。町と地域の新たな発展・住みよいまちづくりのための指針を示し、理解を求めました。  
 参加した住民からは▼ゴミ・し尿処理場▼行政区の統廃合▼赤池・方城支所▼行政区の未加入世帯▼あいさつ運動▼虐待いじめ体罰▼要望書▼雇用など、多岐にわたる質問や意見、要望（4～5ページで紹介）などが寄せられました。  
 約5か月間におよぶ懇談会を終え、住民と直接顔を合わせながら意見交換を行った浦田町長。「皆さんから町や地域を思う貴重な意見をいただきました。今後の町政発展のために最大限努力をしていきたい」と述べ、新年度に向け、歩み始めました。

いただいたりしました。先方の厚意でラジオのFM放送に私自ら出演。町の宣伝も行わせていただき、多くの反響を呼ぶことができました。このように、観光地として町をPRしていますが、リピーターを獲得するためには、観光施設の従業員をはじめ地域住民が「おもてなしの心」で来訪者に接することだと思っています。その心を養うために重要なことは「あいさつ」だと思います。現在、あいさつ促進運動の看板を本庁や支所、公民館などの公共施設に設置。「あいさつがつくるふれあい心の輪」をテーマに、「あいさつ日本」を呼びかけています。

### 住みよい環境作りの創出

昨年度から、「地域支え合い体制づくり事業」を推進し、現在では、83行政区のうち19行政区で先進的な取り組みが行われています。私

たちが小さいころは地域のふれあいや結びつきが強く、向こう三軒両隣の環境で地域の人たちが共に支え合いながら生活していました。が、現在では都会だけではなく、地方でも地域の結びつきが薄れてきています。このつながりが結びつきがなくなると本物の町づくりはできないと思っています。

3月号の広報紙で「地域支え合い体制づくり事業」を実施している地域の紹介をしています。まだ実施されていない行政区は参考にしたいいただき、取り組みをお願いしたいと思います。地域の支える力、助ける力、見守る目があれば安心して暮らせる環境ができます。住みよい環境を地域の大人が作っていかねばならないという目的で、地域支え合い体制づくり事業を進めていますので、地域で協力し合い、自分の問題としてとらえて進めていただきたいと思います。



↑懇談会の時間は午後7時から約1時間半。多忙な時間にもかかわらず、全体で472人が参加し、町長をはじめとする説明者と熱心に語り合いました。

- 赤池地区 10会場 延べ132人
- 金田地区 10会場 延べ167人
- 方城地区 10会場 延べ173人